

登山月報

JMSCA 登山月報 第656号 令和5年11月15日発行



「秋色近い奥久慈男体山南面」写真撮影 茨城県山岳連盟 理事長 中沢 隆一



最後の国民体育大会 特別国体 燃ゆる感動かごしま国体	2
令和5年度 安全登山指導者研修会（東部地区）報告	4
SKIMOの紹介	6
Enjoy Climbing	7
寄贈図書	8
奈良県山岳連盟自然保護委員会のSDGsな活動	9
令和5年度 山での応急手当講習会	10
第20回 山岳遭難事故調査報告書 その4	11
JMSCA、表紙のことば	12

No.656

「特別国体燃ゆる感動がごしま国体スポーツクラ イミング競技会」が、鹿児島県南さつま市加世田特 設スポーツライミング 会場において、10月8日 (日)～10月10日(火)の 3日間、熱戦が繰り広げら れました。



決勝が目白押しの3日 目、三笠宮瑤子女王殿下 のご臨席をおおぎ、競技 会最後となる少年女子リード決勝に声援をおくられ、会場 は大いに盛り上がりました。

本大会は、第75回大会として3年前に開催をされる予定 でしたが、新型コロナウイルスの世界的なパンデミックの影 響で、「中止」となりました。幸いにも、来年度の開催県であ る佐賀県のご理解と、何よりも鹿児島県民の皆さまをはじ め、南さつま市実行委員会、競技主管である鹿児島県山岳・ スポーツライミング連盟の皆様のご情熱とご尽力によって、 特別国体開催を迎えることはこの上ない喜びでありました。 感謝申し上げます。

さて競技は、本大会直前まで開催されたアジア大会(中 国・杭州)に出場し入賞された選手も参加するなど、レベル の高い競技会となりました。

その一方で、ブロック大会では11チームの不参加があり 2県において、「2チームの不参加」がありました。

	成年女子	少年男子	少年女子
不参加チーム数	6	3	2

来年度からは、これら3種別もブロック予選なしで本大 会に出場できるため、不参加県(チーム)には猛省を求めま す。県レベルではなく、JMSCAへの責任(競技者数の減) となってきます。ご注意ください。

競技会前の質問は、6チームよりありました。なかには、 実施要領を十分に読まず、質問に至った内容もありました。 監督、関係者は、しっかりと実施要領について読みこんでく ださい。

今年も、中学生の活躍がありました。少年男子で、7校7 名、少年女子で6校7名の参加がありました。中学生のみの チームも、1チームありました。

少年男子リード/ボルダリング競技で、各3名、少年女 子リード競技で2名、ボルダリング競技で4名が決勝に進 みました。そのうちの1チームは、中学生のみのチームでし た。

少年のみならず、成年女子への少年種別からの継続した 強化をお願いします。

少年男子リード競技決勝

順位	県	ルート	氏名	高度	個人 順位
1	山口県	A	石津元崇	TOP	1
		B	上田悠太	21+	6
2	佐賀県	A	道谷結太	16	8
		B	道谷 律	TOP	1
3	神奈川県	A	大西堂雪	29+	4
		B	濱田琉誠	31+	2
4	栃木県	A	戸田稜大	35	2
		B	加藤頼斗	26+	5
5	兵庫県	A	松岡玲央	32+	3
		B	藏敷慎人	27	4
6	埼玉県	A	長森 晴	29+	4
		B	山田航大	31	3
7	鳥取県	A	藤田 楓	26+	6
		B	山根柊馬	11+	7
8	福島県	A	佐々木玲偉	21+	7
		B	岡田陽向	8	8

★中学3年生

少年男子ボルダリング競技決勝

順位	県	氏名	T	Z	個人 順位
1	佐賀県	道谷 律	4	4	1
		道谷結太	3	3	5
2	兵庫県	藏敷慎人	3	3	6
		松岡玲央	3	3	3
3	三重県	杉本侑翼	3	3	4
		小林津翔	2	3	13
4	奈良県	田淵幹規	3	4	2
		谷井和孝	1	3	15
5	山口県	石津元崇	2	3	11
		上田悠太	2	3	8
6	山形県	青山輝星★	2	3	12
		栗田瑛真	2	3	10
7	埼玉県	山田航大	1	3	14
		長森 晴★	2	3	7
8	神奈川県	濱田琉誠★	2	3	8
		大西堂雪	1	2	16

少年女子リード競技決勝

順位	県	ルート	氏名	高度	個人 順位
1	大阪府	A	小田穂香	37	4
		B	小田菜摘	TOP	1
2	東京都	A	柿崎咲羽	43+	1
		B	石黒紗彩	32+	6
3	静岡県	A	狩野 凧	34+	7
		B	永嶋美智華	41+	2
4	埼玉県	A	武石初音	37+	3
		B	金子千優	33+	3
5	三重県	A	山 真奈実	38+	2
		B	森 奈央	17+	8
6	奈良県	A	藤村侑奈	35	5
		B	抜井美緒	37+	3
7	青森県	A	長尾怜美	21	8
		B	関川愛音	35+	4
8	茨城県	A	村越佳歩	35	5
		B	伊藤 悠	29+	7

★中学3年生

少年女子ボルダリング競技決勝

順位	県	氏名	T	Z	個人 順位
1	茨城県	伊藤 悠	4	4	4
		村越佳歩	3	4	7
2	大阪府	小田穂香	3	4	8
		小田菜摘	4	4	3
3	青森県	関川愛音	4	4	2
		長尾怜美★	2	3	14
4	東京都	柿崎咲羽	2	3	13
		石黒紗彩	4	4	5
5	静岡県	永嶋美智華	3	4	6
		狩野 凧★	3	3	9
6	三重県	森 奈央	2	3	16
		山 真奈実	4	4	1
7	奈良県	抜井美緒	2	4	10
		藤村侑奈	2	4	12
8	長野県	佐藤伊吹★	2	3	15
		徳崇悠乃★	2	4	11

成年男子リード競技決勝

順位	県	ルート	氏名	高度	個人 順位
1	佐賀県	A	中上太斗	30+	3
		B	樋口純裕	32	1
2	千葉県	A	村下善乙	33+	1
		B	島谷尚季	27+	2
3	奈良県	A	西田秀聖	33+	1
		B	吉田智音	19+	5
4	栃木県	A	川又玲瑛	26	5
		B	関口準太	26	3
5	大阪府	A	山口賢人	25+	6
		B	井上祐二	26	3
6	愛媛県	A	清水裕登	26+	4
		B	大政 涼	19+	5
7	福岡県	A	雪丸周平	8+	8
		B	緒方良行	19+	5
8	茨城県	A	今泉結太	25+	6
		B	大金瑞希	17	8

成年男子ボルダリング競技決勝

順位	県	氏名	T	Z	個人 順位
1	栃木県	川又玲瑛	3	4	1
		関口準太	2	3	3
2	大阪府	井上祐二	2	3	2
		山口賢人	1	2	6
3	奈良県	吉田智音	2	2	5
		西田秀聖	1	1	9
4	鹿児島県	土肥圭太	2	3	4
		川畑イサム	0	2	14
5	岡山県	小福田透	0	2	12
		本岡優汰	1	1	8
6	鳥取県	高田知亮	1	1	7
		河上紘輝	0	1	15
7	佐賀県	樋口純裕	1	1	10
		中上太斗	0	1	16
8	愛媛県	大政 涼	0	2	13
		清水裕登	0	2	11

成年女子リード競技決勝

順位	県	ルート	氏名	高度	個人 順位
1	東京都	A	青柳未愛	36+	3
		B	平野夏海	TOP	1
2	愛知県	A	高尾知那	44+	1
		B	倉 菜々子	36+	3
3	佐賀県	A	大河内芹香	36+	3
		B	樋口結花	37+	2
4	滋賀県	A	坪野明日香	25+	8
		B	石井未来	39+	2
5	山梨県	A	戸田萌希	36+	3
		B	宮下 涼	29+	7
6	鹿児島県	A	渡邊沙亜里	35	5
		B	松田喜々	34+	6
7	三重県	A	柏 綾音	32	7
		B	小林 舞	36	5
8	埼玉県	A	野部七海	32+	6
		B	大澤母花	29+	7

成年女子ボルダリング競技決勝

順位	県	氏名	T	Z	個人 順位
1	東京都	平野夏海	4	4	4
		青柳未愛	4	4	3
2	埼玉県	大澤母花	2	4	8
		野部七海	4	4	1
3	愛知県	倉 菜々子	4	4	2
		高尾知那	2	2	14
4	佐賀県	大河内芹香	3	4	5
		樋口結花	2	3	10
5	滋賀県	石井未来	3	3	7
		坪野明日香	2	3	9
6	長野県	三森里子	1	2	16
		中嶋 涼	3	4	6
7	鹿児島県	渡邊沙亜里	2	2	12
		松田喜々	2	3	11
8	三重県	柏 綾音	2	2	13
		小林 舞	2	2	15

リード競技は加世田ドーム屋内競技！

リード競技は、加世田ドームの中に2ルートのウォールが設置されました。雨・風の影響を受けずに競技を進行することができました。

競技における完登者は、予選では、成年男子(1ルート)7名、少年男子4名、成年女子、平野夏海選手(東京都)のみ2ルートともにTOPに達しました。少年女子では2名でした。(成年男子以外は、一人2ルート)

決勝では、少年男子、通谷律選手(佐賀県)、成年女子では、平野夏海選手(東京都)が予選・決勝を通して3課題でTOPを獲得しました。少年女子は、小田菜摘選手(大阪府)が予選の1ルートTOPとともに、1位となりました。おめでとうございます。

完登者には、鹿児島県山岳・スポーツクライミング連盟より、表彰状と記念品が贈られました。

なお決勝・少年女子において、フォールで選手が照明に2度接触する場面がありましたが、幸いにも怪我等にはいたりませんでした。

抗議は2件、2件受諾しました。



<リード競技>

		少年男子	少年女子	成年男子	成年女子
栃木国体	予選	13d	13b	13d	13b
	決勝	13d	13b/c	13d	13b/c
鹿児島国体	予選	13d	13c	13d	13c
	決勝	13d	13c	13d	13c

予選／決勝全8課題完登 5選手！

ボルダリング競技は、仮設建屋の中に競技施設が設置(長崎、岩手、栃木国体同様)されました。観客席は、雨、風をしのぐ規模の大型テントが設置されました。

予選では、成年男子／成年女子第4課題が2段、1級、少年男子／少年女子第2課題が初段の設定で厳しい結果となりました。

そのような中で、成年女子予選で一撃4完を、平野夏海選手(東京都)が果たされました。リード競技とともに、実力を見せました。その結果、青柳未愛選手とともに、東京都の皇后杯獲得に大きく貢献されました。そのほか、一撃4完は、少年男子決勝で通谷律選手(佐賀)、少年女子決勝で、山真奈実選手(三重県)が、ここ一番、実力を見せつけ、予選と



<ボルダリング競技>

		少年男子	少年女子	成年男子	成年女子
栃木国体	予選	1級~2段	2級~1段	1段~3段	2級~1段
	決勝	1級~2段	1級~1段	2段~3段	1級~2段
鹿児島国体	予選	2級~初段	3級~初段	初段~2段	3級~1級
	決勝	1級~初段	1級~1段	2段~3段	3級~1級

もに全8課題完登を果たしました。

なお予選／決勝を通して、全8課題を完登選手は、少年女子から小田菜摘選手(大阪府)、関川愛音選手(青森県)が果たしました。

抗議は、7件、6件受諾1件却下いたしました。

天皇杯 佐賀県！ 皇后杯 東京都！

特別国体かごしま国体

は、成年男子リード競技、少年男子ボルダリング競技で優勝した、佐賀県が天皇杯を獲得しました。皇后杯では、成年女子リード、ボルダリング競技を制覇し少年女子も2種目競技ともに上位となった、東京

都が獲得しました。おめでとうございます。

佐賀県にとっては、本来、今年度国スポが開催される予定でした。順調に強化が進んでいた証となりました。

来年は、SAGA国スポです。連覇が楽しみになりました。

47都道府県中、女子競技得点獲得は14都府県、男子では、18府県ありました。その結果、競技得点を獲得したのは、25都府県に及びました。

4種別へのブロック大会／本大会出場を！

昭和21年から始まった、「国民体育大会」名称が、来年度からは「国民スポーツ大会」として新たな出発となります。

本協会も、本大会への4種別出場数をすべて25チームとなります。成年男子の全県から出場を改め、ジェンダー平等化を図ります。それにともない、ブロック大会も、「1種別(ブロック毎持ち回り)は従来通りのブロック予選なしでの出場権を残し」3種別による、予選会は引き継がれます。また、来年度の「SAGA国民スポーツ大会」では、リード競技予選会で、4種別ともに一人2ルートを登ることになります。

成年女子、少年男子、少年女子では、多くのチームが本大会で活躍できます。ぜひ、選手の活躍機会を創り出してください。お願いします。

後催県との「情報交換会」を開催

今年も、鹿児島県のご協力で、後催県との「情報交換会」を開催することができた。来年度の佐賀以降8県が参加されました。それぞれの課題など、交流ができました。

最後になりましたが、本大会開催には、加世田高校、加世田常潤高校、鳳凰高校の競技補助員、総合案内所、弁当係、環境美化係等として競技会補助員等のみな様の早朝からの



お支援、ご協力を忘れてはなりません。

当初の大会延期から3年余、支えていただきました南さつま市実行委員会、主管を担っていただきました鹿児島県山岳・スポーツクライミング連盟のみな様に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

(国スポ委員会 委員長 西原斗司男)

令和5年度 安全登山指導者研修会(東部地区) 報告

10月20日(金)～22日(日)の日程で東部地区安全登山指導者研修会を実施しました。東日本地域の20歳代から60歳代の29名(男性24名、女性5名)の参加者を迎え、国立磐梯青少年交流の家を研修会場とし、福島県を代表する磐梯山を登山コースに選定した。

【第1日目：10月20日(金)】開講式・講義Ⅰ～Ⅳ

9時頃までに県内の運営スタッフが集合し、会場設営を行った。9時過ぎには受付を設け、早い参加者は10時前に受付を済ませていた。10時過ぎには国立登山研修所から米山所長、黒川専門職員、JMSCAから吉田副会長、古賀登山部長、また、北村、河合の両研修講師もお迎えした。遅れて参加する2名を除く他の参加者は12時には交流の家の食堂で昼食をすませ、12時40分から開講式を開催した。

開講式は国立登山研修所の米山所長、JMSCAの吉田副会長、主管する福島県山岳・スポーツクライミング連盟の平子会長からそれぞれ挨拶をいただいた。つぎに、研修会講師の北村、河合の講師紹介を行い、13:00から講義を開始した。

講義Ⅰ「登山のプランニング」ーリスクに対応する準備ー

北村憲彦講師

山岳遭難は増えている。登山は観光旅行ではない。危険を内在した野外スポーツである。そして、独特な運動で生活も伴っている。遭難事故を回避するためには、登山客から自立した登山者へ、連れて行ってもらう登山から考える登山へと意識を変えていくことが重要である。安全に登山を行うには、登山におけるリスクマネジメントを考える。リスクの理解と合意、リスクのコントロール、ダメージのコントロール。これらをまとめて登山のプランニングを行う。

講義Ⅱ「登山のPDCA」

北村憲彦講師

登山を計画実行する際はPDCAサイクルを利用して安全登山を実践する。P(Plan計画)→D(Do実行)→C(Check評価)→A(Act修正)→P……。登山ナビゲーションの際のPDCA活用例は、①先読み(Plan)→②ルート維持(Do地図に従って移動する)→③現在地確認(Check特徴物で現在地を把握)→④修正(Actチェックポイント再設定)→先読み…のような流れになる。

PDCAサイクルを活用した安全登山の指導をする際には次のようなことを意識すること。登山客を増やすのではなく、



開講式



北村講師の講義の様子

自律した登山者を育てる。仲間と自分を守るために徹底的にプランニングを検討し、いくつものプランBを立案する。PDCAサイクルを常に回しながら登山をする。

講義Ⅲ「読図とナビゲーション」ー道迷い遭難を考える、遭難防止の方法は？ー

河合芳尚講師

道迷いが起きる原因には、登山計画を立てるとき事前の準備や調査不足、途中で計画を変更している。出発時間が遅くなった、通行止めの案内や赤テープの現地情報の無視や見落としをした、登山の途中でチームが分離してしまった、電池切れなどで地図アプリが使えなくなった、などが考えられる。道迷いの防止キーワードは体力、冷静、技術である。

実際の道迷いの四つの事例が紹介された。これらの事例では、計画変更、仲間とバラバラになる、視界不良の気象条件、事前調査不足が原因の道迷いによる遭難事例であった。あれっ?と思った後の行動で遭難するかどうかが決まるので、道がなくなっているのを気付いた時、不安になり、なんとかしないと願望だけに頼ることをせず、冷静になって、コンパス、地図、地図アプリ等を利用した的確な判断をすることが重要である。

講義Ⅳ「目指せ読図名人!ー地図アプリも上手に活用して賢く安全登山ー」

河合芳尚講師

現在まで遭難者数は増加の一途だが、遭難による死者・行方不明者の数は横ばいで推移している。これは、登山者の8割が携帯電話を持っていて気軽に救助要請をしていると思われる。現在位置がわかり進む方向がわかれば、道に迷うことはない。しかし、8割の登山者が携帯電話を持ち地図アプリを使用して現在位置を把握できるのに、道迷いが発生している。これは、地図アプリを知らないか、使えないためではないか。

いろいろな地図アプリがあるが、“YAMAP”と“ヤマレコ”が推奨できる地図アプリである。YAMAPの特徴、ヤマレコ

の特徴の説明があり、地図アプリは登山の際有効で、使って有効性を確認する。紙地図も必要で特徴物等を書いて持参すること。他人のデータを自分のペースに置き換えて使用する。家族にはリアルタイムで現在位置を連絡すること。アプリの山行計画は登山計画ではない。アプリを使って安全登山を心がけること。

1日目の夕食の後19時30分から希望者のみの情報交換会を行った。参加者は多くないだろうと思っていたが、時間がたつにつれて参加者が多くなり用意した食べ物、飲み物が足りなくなる状態だったが、皆さんいろんな話で盛り上がり有意義な情報交換会であった。

【第2日目：10月21日(土)】実技研修Ⅰ、Ⅱ

1日目の机上講習を踏まえて、外に出て登山をしながらコンパスを使い地図読みを体験する。

実技研修Ⅰ 河合芳尚講師

青少年交流の家の前庭に集合して、コンパスの使い



出発前の集合写真

方の説明を受けて練習を行った。コンパス1-2-3(ワン・ツー・スリー)による目的地への到着方法である。最初の位置に目印を置き、コンパスを使い三角形の辺に沿いに方向を定めて5歩歩いて最初の位置に戻る練習である。参考資料には三角形、四角形、五角形、六角形があり、参加者は各々練習してコンパスの使い方を確認した。

実技研修Ⅱ「ナビゲーションの実践」

北村憲彦講師、河合芳尚講師、福島県山岳・スポーツクライミング連盟から看護師1名を含む9名の山岳コーチ、それに茨城県山岳連盟から1名の国際山岳看護師が班ごとの班長、副班長、それに介護の役割を担い、その他に福島県山岳・スポーツクライミング連盟からサポート隊として7名の会員が同行し、登山研修所、JMSCAの2名の役員の方も山へ同行された。交流の家の本部には、米山所長、平子会長をはじめ6名が待機した。

山に登る予定の参加者は全員バスに乗り磐梯山登山口の八方台へ向かった。この日の天気は、寒冷前線が通過するため、朝のうちは天気の崩れは小さいが時間がたつにつれて荒天となり、風が強くなり気温が急激に低下する予報であった。北村、河合両講師から地図にある17点のポイントと、地図の等高線の形状と実際の地形の確認方法等について説明を受けて、参加者は4班に分かれ班長、副班長とともに班ごとにそれぞれ山に入った。班ごとにチェックポイントの位置が実際の地形のどこに当たるのか、参加者が一人で判断し、それをみんなで話し合いながら確認した。特徴のある地形のところでは、地図上のチェックポイントを実際の登山道で指摘することが容易であるが、判断が難しいところもあった。天候は午後になるとさらに悪化し山頂では吹雪になった。第2班が山頂まで行ったが、班内の議論で山頂へ行くことをやめて、途中で引き返した班もあった。弘法清水小屋では北村講師による班ごとの行動の確認の話し合いがあった。2時半過ぎにはすべての班が無事下山した。コンパスによる進路と地図による地形の確認の訓練ができ有意義な登山となった。



地図とコンパスで進行方向確認



グループ討議

入浴、夕食後18:30より2日目の情報交換会を行った。全員の参加を得て和やかに会を進めることができた。参加者全員の自己紹介を行い、登山研修所やJMSCAの役員の方からも自己紹介があり、あまり身近に感ずることのない方々からの親しみのあるお話を聞くことができ、また、いろいろな立場の参加者からも貴重な話を伺い、親交を深めることができ有意義な時間であった。

【3日目10月22日(日)】

研究討議— 北村憲彦講師、河合芳尚講師 安全登山の指導者を目指して—ルートプランニングの指導—

前日の実技研修の行動を振り返り班ごとの問題点を討議した。

1班では、隊列が間延びした、地図の先読みの大切さを実感した、特徴が少ないポイントでは見落とししそうなった、弘法清水小屋で下山の判断をしたことは正解だった、等の意見が出て、講師からは立ち止まって、一瞬だけ地図を見て確認できるように地図の事前検討、読み込みが必要との助言をもらった。

2班では、ポイントでは見つけにくいところがあった、登りと下りではポイントでの地形の感じ方が違っていた、頂上へ行ったが、天気が悪かった等の意見が出、講師からはリスク軽減、回避の議論が必要ではなかったかの助言をもらった。

3班では、ポイントの地形上の確認ができるか不安だったが、地形の特定ができた、ピークへ行くか否かの判断が難しかった、怪我無く全員無事に下山できてよかった、等の意見が出た。

4班では、地形の特徴を見ながら歩くことが必要だと感じた、地図と地形を確認し一人一人が深く考えることができた、しんがり出発だったため、先行する班が進むのを待つため時間のロスが多く、行動が制限された、予想外の雪に少し焦った、等の意見が出、講師からは運営改善のアイデアが提示された。

登山をする際のリスクアセスメント、リスクマネジメントの特定・評価、急に訪れるリスクへの対応、危険を減らすための緊急対応等について各班ごとに話し合い、議論を深めた。

最後に2017年3月那須雪崩事故の概要の説明を受け、原因と対策について班ごとに話し合った。

研修会の全過程が終了して、研修生に3日間の研修を振り返って今後の参考にすべくアンケートに答えていただいた。アンケート終了後閉講式を行い、研修生には国立登山研修所米山所長より修了証書が授与された。米山所長、JMSCA古賀登山部長、平子会長、来年の研修会主管の富山県山岳連盟の開澤副会長兼理事長より挨拶があり、閉講式を終了した。

ご参加いただいた研修生の皆様、研修会を計画された国立登山研修所、日本山岳スポーツクライミング協会の関係者の皆様、それに、運営に協力いただいた福島県山岳・スポーツクライミング連盟の皆様には厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

(福島県山岳・スポーツクライミング連盟 理事長 渡辺敏夫)

SKIMOの紹介

インタビュー

SKIMO委員会
強化委員長・日本代表ヘッドコーチ

松澤幸靖 氏

—まずは、昨シーズンを振り返っての感想を教えてください

昨シーズンは、SKIMOが2026年のミラノ・コルティナダンペッツォ冬季五輪の追加競技に決まって最初のシーズンでした。それもあって、五輪種目となったスプリントとミックスリレーに向けての意識が、一気に高まったことが特徴だったと思います。

日本選手の昨シーズンの成績は、世界選手権で決勝に進出はしたものの、まだ世界のレベルとの差は実感としてあり、トランジットの速さや精度、滑りの技術、登りの体力など、さまざまな面で世界の壁を感じました。

昨シーズンが終わった後は、春と夏に強化合宿を行ない、体力測定などを実施しています。世界との差を肌で実感した選手たちも、個々にトレーニングに励み、なかには世界との差をかなり詰められるのではと、期待ができる選手もいます。

—今シーズンの目標は？

オリンピックに向けての大きな勝負は、出場権が決まる2024-25シーズンになるはずですが、その前年にあたる今シーズンは、オリンピック出場権を勝ち取るための準備の年と位置付けています。

具体的には、ワールドカップにおいて、男子、女子ともに10番以内に入るという目標を設定しています。夏の間、選手も個々にトレーニングをして実力を上げてきていますので、あとは現地でいかに最終調整をうまくできるかです。ワールドカップの初戦で現地での状況を確実に把握し、選手が力を発揮できるよう迅速に調整を行ないたいと思います。



世界選手権スペイン大会3月

また、チームの体制づくりも必要です。大きなニュースとしては、今シーズンの途中から外国人コーチを迎えます。本場であるヨーロッパのSKIMO情勢に詳しい外国人コーチの存在は、日本チームにとって心強い存在となることは間違いないですし、体制づくりのスピード感も変わってくるはずですが、これはチーム強化においても大いに期待できることです。

—今シーズンの行動計画は？

今シーズンは世界選手権がありませんので、11月に行われるスペイン・ティエヌの大会から、来年4月のイタリア・コルティナの大会まで、ワールドカップ6戦を戦います。

そのなかで重要になるのは、やはりミックスリレー種目をどう戦うかということです。オリンピック出場権を得るためには、アジアでトップにならなくてはならない。ミックスリレーで安定して速いタイムを出せるようになる必要があります。

基本的には、ワールドカップのファーストランで好成績を出した選手を、次の大会で組ませるという考え方がありますが、今シーズンは、なるべく多くの選手にミックスリレーを経験してもらいたいと考えています。来シーズンは、今シーズンよりも選手が絞られてくるとは思いますから。さまざまな意味で、来シーズンへの布石が大切になる一年だと思っています。

—日本チーム代表として、意気込みを聞かせてください。

意気込みですか(笑)。やはり順位を出していくためには、チーム全体の雰囲気の良い状態である必要があると考えています。なので、選手とコーチ、選手同士といった、メンバーが互いに認め合って高め合うような雰囲気を作っていきたいです。同時に選手には、よりアスリート気質を高めてもらいたいとも考えています。

比較的小さなチームなので、その点は比較的うまくいっているような感触はあります。チームで信頼感を築ければ、周りが、選手本人が思っている以上の力を引き出してくれることもある。そういう好循環を生み出し



室堂合宿6月春合宿

て、「あれ、日本が意外と強くなってる」と世界の国々から思われるようになれば、しめたものですね。

※SKIMOの今シーズンの主なスケジュール

- ①11 / 4-26 : スペイン合宿(フランス・ティニュー)及びWCフランス・バルトランス大会出場
- ②12 / 16,17 : 日本代表合宿(梅池)
- ③1 / 27,28 : WCスペイン・ポウタウル大会
- ④2 / 2,3 : WCスイス・ヴィラール大会
- ⑤2 / 17,18 : 日本選手権・宇奈月大会インディビジュアル競技
- ⑥2 / 22-25 : WCイタリア・ヴァルマチロ大会
- ⑦3 / 1-6 : アジア選手権 中国・吉林
- ⑧3 / 1,2 : WCオーストリア・ジラドミン大会
- ⑨3 / 16,17 : 日本選手権・白馬八方大会スプリント、MIXリレー
- ⑩4 / 6,7 : WCイタリア・コルチナ大会



以上

Enjoy Climbing

パキスタン チャラクサ氷河クライミングツアー 2022 ⑤

佐藤裕介 記

8月4日BC (4:30) - ナフィーズキャップ取付 (8:00)
 - 登攀終了 (17:30) - 取付 (19:00)

4日間の食料、燃料と追加のクライミングギアを携えてBCを発った。

氷河のライン取りもこなれて前回よりは短時間で取り付きに到着。

今日はルー君がリード役。ユマーリングして昨日の続き3P目からリスタートした。いきなり朝一から時間がかかるピッチが始まり今日は厳しいクライミングが続いた。

8月5日 取付 (5:00) - 約5500mコル直下のピークビバーク地 (21:30)

いよいよG.O.U.P. 昨晚の泊り道具以外はホールバックで昨日の内に荷揚げしているので割と身軽にユマーリングしてスタートした。

ルート内容も厳しく思った様にロープは伸びて行かなかったが、朝から晩まで良く登った。

Nafees Cap (標高6000m) 約1000mの壁。途中敗退

1P目5.10-, A0 (50m) 坂本

ナフィーズキャップ正面壁の目立つワイドから取り付く。左のワイドの取り付きから右のワイドに入り込ん



ナフィーズキャップは中央左の岩峰。右のスカイライン的なライン。今回の最高到達点は中ほどのコルまで(8月2日)

でスタート。意外と右上する際のスラフェイスが悪くA0入る。ワイドに入ってから15mランナウトしながら進む。つまりノープロフリーソロ状態。キャメ6番をBCに置いてきたのを後悔した。

2P目5.10, A0 (40m) 坂本

威圧感ある被ったワイドを奮闘して登っていく。なんで6番を置いてきてしまったんだろう。。。中間部クラックに草が詰まっている部分が恐ろしかったが吠えながら気合いの入ったクライミングで登ってくれた。

3P目5.9, A1 (60m) 坂本, 田中

クラックが2本並んで走っておりどちらを登るか迷うところだ。右に行くが行き詰まり5m登ったところで今日は時間切れ。フィックス作業を終え地上に降りると既に暗くなってしまった。下山する谷は、チャラクサ氷河の中としては少々荒れた氷河である。それなりにクレバスが開いた谷をグルッと迂回しながらヘッドライトで慎

重に下り本流へ到達。氷河本流でも少々迷いつつやっ
とBCに戻ったのは22時を回っていた。

1日のレストを挟んで早朝BCを立つ。3時間半の歩
きで取り付きに戻ってきた。フィックスをユマーリング
して前回の続きを再開した。今日のリード役はルー君だ。

右のクラックを前回の到達点まで行ったら左のク
ラックに振り子する。カムナッツのエイド後、再び振り
子して右のクラックに戻りロープを伸ばした。後半は2
番サイズのクラックなのだが所々に生えている草に邪
魔されてエイドするしかなかった。

4 P目 5.10 - (40m) 田中

ライン取り難しいピッチ。プロテクションも取りにく
くランナウト状態で耐える事も多く恐ろしい。3 P目同
様、時間のかかるクライミングとなった。2ピッチ続け
ての厳しいクライミングとなりルー君も心身ともに疲れ
が溜まっているだろう。

5 P目 5.10 c (45m) 田中

佐藤がユマールしてビレイ点に着くと、ルー君が「ギ
ブギブ、無理っす」とリードしない宣言。「困るなあ」。見
上げる壁はカンテ状となっていて節理がなくプロテク
ションが取りにくそうだ。ピトンも設置できないと言う。
仕方ないので佐藤が一先ずユマーリングしてきた登山
靴のまま壁の様子を見に行く。何とかピトンを設置す
ることに成功。そのままエイドで体制整え合計3つのピ
トンをガッチリと設置し、「これで落ちて止まるから
大丈夫だな」とリードを再度交代してルー君を送り出
した。

設置したピトンは激しいフォールでも抜けることは
なさそうなくらいしっかり決まっているが、ピトンから
カンテを回り込んで不安定なムーブを起こさなければ
ならず、かなり怖そうだ。それでも流石、エースのルー
君だった。しぶとくしっかりとフリーで突破していく。
その後はそこまで厳しい箇所はなかったが弱点を繋い
で右に左に迂回しながらロープを伸ばすこととなり面

倒だ。最終的なロープスケールは45mだったが実際の
登攀距離はかなり長いピッチであった。5 P目終了点
でルー君、「疲れ切りました」とぐったりしている。時間
もそろそろ夕暮れどきだったし、ここまでをフィックス
して一旦地上に戻り、明日ゴーアップとすることに決
めた。サードの坂もっちゃんが、アンカー付近の危険な
浮石を落としてくれたが、フィックスしていたロープに
当たり切れてしまった。仕方ないのでロープを結んで
フィックスし直しながら下降した。

6 P目 5.9, A1 (55m) 佐藤

取り付きで泊り、早朝ユマーリングして佐藤がリード
を始める。

まずは昨日見上げた時から懸案となっていた積み木
状態の岩を慎重に登りピトンを打った。そこからA1～
A2程のエイド。薄刃ピトンを明らかに浮き気味の岩に
差し込みドキドキしながらアブミに乗り込む。これまた
飛び出している怪しい石に強引にナッツを決めて
更にアブミ。このセクションの抜け口的な緩傾斜帯まで
あと数手だ。節理は無くなるのでフリーに移行するがエ
イドからのフリーって怖いよね。必要以上にホールドを
握った手に力が入ってしまったのが原因か、結構しっか
りしていると思ったホールドがもげて落ちる。ナッツは
石ごと落ち、効いてない薄刃ピトンは当然抜けて次のピ
トンが少し斜めに傾いた状態で止まった。これが抜けた
ら取り付きに待ち構えている上向きフレイクに当たって
とても痛そうだ。スタート早々の手痛いフォールとなっ
てしまった。自分としては結構まともなフォール(ベア
トリスのフリー化時は別として、カラコルム、ヒマラヤ
方面で落ちたのは初めて)だったのでショックは大き
かったが、水を一口飲んでから再開した。再度のトライ
となった抜け口でのフリーではかなり緊張した。

その後は容易だが左にかなり迂回してから節理に入
り最後はいやらしいフリーでロープを伸ばす。

【以下次号】

寄贈図書

Corean Alpine Club	「山(山)」2023年8月号 Vol.280号	会報	(公社) 武術太極拳連盟	「武術太極拳」2023年10月No.404	会報
長野県山岳協会	「やまなみ」No.250	会報	(一財) 日本防災・防災協会	「地域防災」NO.52	会報
新潟県山岳協会	「新山協ニュース」第368号	会報	東京野歩路会	「山嶺」Vol.101 No.1124	会報
中華民国山岳協会	「中華山岳」季刊 293	会報	おいらく山岳会	「山行手帖」No.767/23. 11	会報
株式会社ネイチャエンタープライズ	「岳人」2023 November No.917	会報	(公財) 埼玉県スポーツ協会	「スポーツ埼玉」Vol.300	会報
日本運動具新聞社	「スポーツ産業新聞」第2412号、第2413号	新聞	(公社) 日本山岳会	「山」10月号 No.941	会報
東京都山岳連盟	「TMF とがくれん通信」2023年3号	会報	日本山岳写真協会	「日本山岳写真協会ニュース」10月号 第507号	会報
株式会社山と溪谷社	月刊 「山と溪谷」2023 No.1070	情報誌	日本勤労者山岳連盟	「登山時報」秋号 NO.581	会報

奈良県山岳連盟自然保護委員会のSDGsな活動

奈良県山岳連盟は加盟10団体、そのうち4つがSCのみの会ですので登山をする山岳会は高体連を含めて6つしかありません。組織も脆弱で、競技委員会以外は担当理事が一人委員長で運営しているのが実情です。自然保護委員会も同様で、担当する理事もいません。理事長がJMCSA自然保護委員会の主幹理事を担当している関係で、委員長事務を取り扱っている状態です。

そのような状況ですので、近年は主動的な取り組みは出来ていません。近畿地区山岳連盟自然保護委員連絡協議会への出席や、大台ヶ原の利用に関する協議会や鈴鹿山系連絡協議会などの近隣の会合への役員の派遣を行っている程度です。

ただこれまでの山岳連盟が関わってきた取り組みが現在にも引き続けていることもあります。奈良県南部に横たわる大峰山脈は紀伊山地の中核を構成しており、古くから「近畿の屋根」と称せられて近畿各府県をはじめ全国からの登山者を受け入れております。最高峰である八経ヶ岳(1915m)、弥山(1895m)周辺には国指定天然記念物の「オオヤマレンゲ」が自生しています。2006年には「紀伊山地の霊場と参詣道」とともにユネスコの世界遺産に登録されています。梅雨時にはこの花の端麗な姿を求めて多くの登山者が訪れます。

しかし平成の声を聞くようになってから、この美しい花がどんどん見られなくなるという危機を迎えます。大峰山脈でも個体数を増加させたシカは、ついに高山帯の植生までも食指を伸ばし、オオヤマレンゲをもついばむようになりました。春先に雪の中から顔を出す新芽や若葉は格好の餌食となります。樹高の低いところでは枝までも食痕がついています。1990年代半ば、これを憂いた連盟では各山岳会による状況観察を踏まえ、県当局に対して状況説明を行い保護の必要性を訴えました。1996年には生育地の一部を囲うフェンスが奈良県と当

時の環境庁によって設置され、その後内側では植生が徐々に回復していきました。

しかし大峰山脈は一晩に1m近い積雪を記録することがあるなどの多雪地帯です。このため春を迎えるとあちこちでフェンスの倒壊などが発生してしまいます。そういった弱点からシカがフェンス内に侵入してしまうといった事例も報告されています。環境省などは精力的に補修をしていますが、巡回が十分に行えないこともあります。われわれ登山者も不都合を見かけたらきちんと報告するなど、可能なかたちで自然環境保全に協力していかなければなりません。登山道を横切るエリアの扉の閉め忘れなど、せつかくの取り組みを無にしてしまうケースもあるようです。

植生や鳥獣の目撃報告をするなど、通常の登山活動にちょっと手を加えてできることはいくらでもあります。地元自治体による外来種引き抜きボランティアツアーなど、コロナ禍で中断していた行事も再開されつつあります。弱小岳連ではありますが、各都道府県の取り組みを参考にしながら、やれることから手を付けていこうという所存です。

(理事長 前田善彦)



環境省設置の柵



柵の外ではシカが食べないバイケイソウのみが目立つ



登山道の浸食も発生

令和5年度 山での応急手当講習会

主催：登山医科学委員会 令和5年10月21日（土）～22日（日）

「山の応急手当講習会」を神奈川県立山岳スポーツセンターにて開催しました。登山医科学委員会が主催する初めての講習会となります。内容としては「夏山リーダー講習会」の基礎編と上級編におけるセルフレスキューの範囲を網羅するようにプログラムを組み立てました。座学が3時間、実習が6時間、質疑応答1時間と実質10時間の講習としました。

講習会参加者は受講者16名（男性9名、女性7名）、スタッフ7名の計23名での開催となりました。今回のスタッフは、全て山岳医療に経験の豊かな医師に参加してもらい、実習では5つに分かれたグループをそれぞれ担当してもらいました。実習内容は頭部外傷、手首捻挫、足首捻挫、大腿骨折、下腿骨折、骨盤骨折などの応急処置、全身観察の方法、また、チームでのセルフレスキューというものでした。受講者の方々には緊張感を持ちながら実習していただき、また各グループにスタッフ1名が担当しましたので話しやすい環境となり、受講者からの数多くの質問にも対応することができました。以下に受講者の代表の感想を掲載します。

（登山医科学委員会 中島隆之）

受講者の感想

東京都山岳連盟 山スキー同協会 結城 宏明

今年、山行中に防災ヘリ搬送2回遭遇、また自分のグループで外傷者発生、居合わせた看護師さんの協力でなんとか応急処置ができた事故がありました。その直後「山の救急講習会」の存在を知り、すぐる思いで申し込みました。二日間の講習でしたが、私にとっては短くも充実した時間でした。講習を通じて強く感じたことが三点あります。

一つ目は、「山中での事故対応が総合的に学べた」ということです。一次救命（CPRやAED）、外傷手当、三角巾活用などは、赤十字、消防でも学べます。当講習では、それらも利用しつつ、山中での事故を想定し、傷病者の観察、安全な場所への移動、救助要請、外傷応急手当といった一連の流れが屋外実技を通して学べたことです。当講習に加え、一次救命はもちろんのこと、岩場や雪上などで安全に搬送するレスキューなど各自の山行スタイルに合わせたテクニック、さらにはリスクアセスメントによる安全管理などを加えることで、より対応範囲、安全性が増すと感じました。

二つ目は、講師の方々が全員、医療従事者の方々であり、医者目線の的確に指導頂けたことです。事故現場からクリティカルなダメージを想定し、順に確認作業をすすめる対応は、日々医療に従事されている方ならでと感じました。

三つ目は、危急時対応は定期的トレーニングが肝要なことは周知のことではありますが、改めて意識したことです。所属組織で仕組みを作るなど、工夫の方法はあろうかと思いますが、そこが課題でもあります。

最後になりますが、このような機会を提供していただいたJMCSA、そして忙しい中、企画、準備して下さった講師



の方々に心から感謝申し上げます。

所属山岳会なし 匿名希望（Y. N. 女性）

今回参加した講習会では、座学と実技により、知識と実践の両面を学ぶことができました。特に、実際に応急手当をしたことがない私にとって、実技講習は貴重な経験でした。講師の先生は皆医師の方で、多くの方が、実際の登山の経験をお持ちでした。基本的な対応や手順を丁寧に教えてくださったのはもちろんのこと、そのうえで、「実際にその場に救助者が1人しかいない場合は？」、「〇〇が無い場合は△△で代用できるか？」、「〇〇と××は、どちらを優先すればよいのか？」など、山での実際のシチュエーションを想像しての細かい質問に対しても、豊富な知識経験により1つ1つ答えてくださいました。

また、山で実際に遭遇する場面では、必ずしも講習会で学んだとおりにはいかないかもしれませんが、「なぜこれが必要なのか」、「なぜ重要なのか」という理屈の面も説明くださったので、いざというときには、講習会で学んだことをもとに自分の頭で考えて、優先順位を付けて対応できるのではないかと思います。

私が講習会に参加したきっかけは、ある日、下山中に、斜面の下に倒れている登山者がいるところを通りかかったことでした。すでに数人の方がその登山者の周りを囲んで手当をしていました。私も、何かできることがあればと思ったのですが、救命や手当に対して何の知識もなく、私が関わってもかえって症状を悪化させてしまうことになるのではと思い、怖くて救助の輪に加われず、様子を見ているだけになってしまいました。



講習会を受講したことで、応急手当として私でもできること・すべきことを学び、理解することができました。今後は、登山中の怪我などに対し、私自身が率先して、救助のために動

くことができるような気がしています。また、1人でも多くの方がこうして救助・手当について学んでいけば、登山の安全につながっていくだろうと思いました。



3. 登山事故態様(要因) 1998 - 2022 (25年間)

事故統計で扱う事故要因は15ある。しかし、登山事故の原因が1要因に絞れるケースは殆どなく、専門家でも難しい。そのため、全国での事故調査に「原因」ではなく、事故の有様として「態様」としたのは非常に優れた対処法であった。確かに、事故現場において、レスキューと事故者が対面した時点での有様「態様」に絞ると、択一選択が可能となる。この判断手法でも大まかな事故の状況は把握することができるため、山岳遭難事故の発生状況を知る上で、指標となり得ると考えたのであろう。

主な態様①～⑦に関する、25年間(1998～2022年)の変化を以下にまとめた。

①道迷い事故の特徴と推移 1998 - 2022

「道迷い」事故は、もっとも「事故態様」と思われる項目である。レスキューの要請があり、該当者を発見した時点での観察から、傷害がなく、衰弱もしてなければ、「無事救出」として大半は調査用紙にある「道迷い」項目が選ばれる。

欧米では「予定遅れoverdue」と道迷いは仕分けされるが、警察庁の道迷いについては同じものとして扱われる。また、道迷いの多くは、「山菜採り」目的で入山し、迷ったケースが多いと推定されるが、警察統計の元データが非公開のため推定の域を出ない。

図14に見られるように、道迷いは1998年の200人程度から急速に増加していき、2012年には1000人を超えた。事故要因の全体に占める割合も最大44%までにまで達した。この1000人越えした急増と、その後の高止まりは、登山者の高齢化の影響と推測しているが、先述の理由と同じくデータを絞り込む事ができない。

一方、「道迷い」は、減遭難運動において、最も効果が期待できる事故要因に位置づけられてきた。2022年事故でも道迷いをなくせば、2226人(2011年レベル)にまで減らすことができる。

道迷いは、傷害事故と異なり、登山道と案内板の整備だけで劇的に減らすことができる要因でもある。

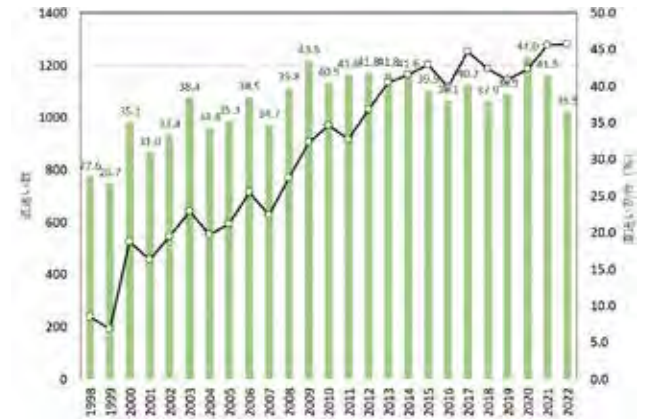


図14 道迷い数と全事故要因に占める道迷い事故の割合の経年変化

②滑落、転倒、転落事故の特徴と推移 1998 - 2022

「滑落」、「転落」は1996年まで、「転・滑落」として扱われてきた。用語の定義は明確でない。用語集では、「滑落」を「氷雪斜面を滑り落ちるさま」と定義しているが、実際に氷雪斜面での事例は少なく、大半は土・岩斜面を滑り落ちるケースを滑落としている。一方、「転落」は一般に「ベッドから転落する」と用いられるように体のバランスを崩しながら自由落下する「墜落」に相当する。「転倒」も倒れながらある程度落下動作を含めているため、「転倒と転落」も感覚的な規模の違い程度の区別でしかない事が多い。

しかし、曖昧な用語の違いであるが、実際には転倒、転落、墜落、滑落の違いは非常に大きい。山岳事故データベースにおける損傷部位の研究結果より、明確になっている(第19回事務報告書参照)。

転倒、滑落、転落事故の経年変化について、図15に表した。図より明らかなように、「転落」だけが傾向の異なる曲線を描いている。「転落」は、切り立った岩場などで、バランスを崩し自由落下した墜落ケースに用いるため、転倒、滑落と同じように頻繁には発生しないと推定している。

転倒、滑落、転落の割合は、1998 - 99ごろ35 - 40%と高い割合であったが、その後、登山の様式が変化したのか、道迷いの急速な伸びに押されて、減少し、32%前後を維持している。

なお、全体的な事故者の曲線形状(図5参照)と、転倒と滑落の曲線形状に比較すると、よく類似した曲線形状となり、全体的な事故の発生状況を伝える指標の一つと考えている。

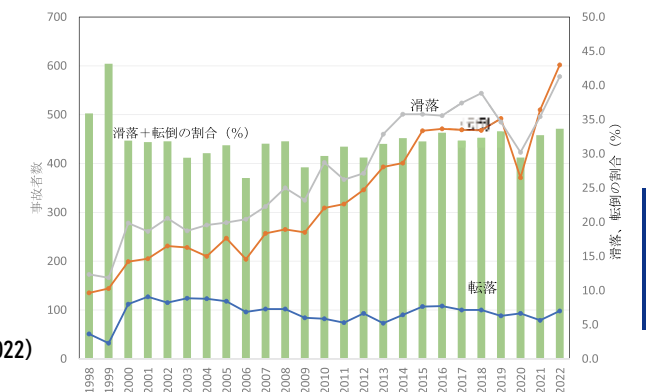


図15 滑落、転倒、転落の経年変化(1998 - 2022)

- 日 時：令和5年10月12(木)
14:15-18:50
- 場 所：J S O Sビル3F会議室1と
Webのハイブリッド会議
- 出席者：丸会長、蛭田・飛松・吉田・
山本各副会長、小野寺専務理事、古賀・
濱田・赤尾・町田・栗田・望月・安井各
常務理事、佐藤・小日向・前田・野村・小高・
中橋・島田・杉本・西谷・畑中・山口
(赤字検証委員会報告から第10号議案採
決まで参加)・樋口(2:50から参加)・中島・
平田各理事 以上27名
古屋、佐久間各監事 以上2名
オブザーバー：百瀬競技委員長
- 欠 席：小田部理事、水村理事

1. 開 会

2. 丸会長挨拶

国体については、約5000名の参加者があり、新しい選手もでてきた。鹿児島県山岳・スポーツクライミング連盟の頑張りでのよい大会となった。

3. 会議成立状況報告

理事数29名中26名出席(開会時)、監事数2名中2名出席(定款第33条、定足数=15名(1/2超、決議は出席理事の過半数をもって行う。))

4. 議長選出

丸会長が議長を務める(定款第32条)。

5. 議事録署名人

会長及び監事(定款第34条)

6. 議 題(注: 審議順に記載)

2022年度赤字決算検証委員会報告について
内藤委員長が画面を見せながら報告をした。当委員会の報告概要としては、

- (1) J M S C Aの令和4年度決算が大幅な赤字に至った原因の究明
- (2) J M S C Aが赤字状態から収支が均衡する状態に戻るための提言の2つとなっている。

さらに、検証手順、検証日程、検証内容が説明され、その後、決算資料から1. S C部競技委員会、2. S C部強化委員会、3. 登山部山岳スキー委員会、4. 法人会計管理費の各委員会、項目ごとの分析と問題点、及び構造上の問題を説明した。

本報告では、ガバナンス上の問題、コンプライアンス上の問題を指摘するとともに、会長、専務理事、及び常務理事会、理事会の責任についても言及した。

最後に、以下の5点が提言された。

- (1) 収支相償を前提とした事業運営の履行及び収支の徹底管理
 - (2) 常務理事会、理事会の機能強化
 - (3) 理事(監事含む)に対する公益法人に対するの再教育の実施
 - (4) あらゆる収入調達手段の実行
 - (5) 事務局・委員会における管理会計強化
- 議案第1号 第8回(9月実施)理事会議事録の承認について**
質問は特になく、異議なく承認された。

議案第2号 補正予算について

濱田常務理事が、配布資料を基に説明し

た。S C部の補正予算を10/28までに明確にし、まとめることになった。

議案第3号 借入PTについて

望月常務理事が、配布資料を基に資金確保の手段としての基金の概要と以下の特徴を説明した。

- 定款に基金の条項を入れる。
 - 総会で説明し、承認を得る。
 - 返還するのが前提。返還は必要だが、時期等はさだめなくてよい。
 - 募集の目的は、社会に貢献し、協会の価値を高め、財産基盤を強化すること。
 - 一口X円、総額目標としてY円というような内容が必要。
 - どうなったら、返還できるのかという部分を明記する必要がある。
- その後、以下のような意見がでた。
- 岳連や、役員からの基金の受け皿を作るのは、今後の拡張性を考えると非常に有益と思う。
- 基金設立について、採決し、以下のように全員賛成となった。

反対：0名、棄権：0名、賛成：26名
望月常務理事が基金設立の責任者となることについて採決をとり、異議なく承認された。

反対：0名、棄権：0名、賛成：25名(望月常務理事が決裁に加わらなかったため)

議案第4号 B J C開催について

町田S C部長が、現状の説明と、開催地として新たな候補地で行う場合の概要を説明した。

日程：2/8から2/12にかけて実施。

収支：J M S C A持ち出しが1,000万円以下になる見込み(交通費は含まれていない)

- 開催地の詳細検討と提案は、町田S C部長と、百瀬委員長で行う。

行政及び、スポンサー、博報堂D Yから情報を収集し、収支情報をまとめたうえで、10/19 PM 13:00から臨時理事会を行ない、開催場所を決めることについて採決を取り以下の通りとなった。

賛成：21名、反対：0名、棄権：2名 栗田常務理事、杉本理事(安井常務理事、小日向理事、中橋理事は離席)

議案第5号 2023年度上期中間決算及び報告について(11月に正規)

小野寺専務理事が、配布資料を基に説明した。11月の理事会で承認を得る予定。内容(総括、個々の活動内容)を見て、過不足があったら指摘してほしい旨伝えた。詳細活動実績は、別途送付予定。

議案第6号 全日大会開催(R5年度)について

蛭田副会長が配布資料を基に説明した。開催要項を全国に通達済で、申込受付も開始した。実施は2024/2/17-2/18の予定。

展示即売会を含め様々な企画を用意している。J M S C A負担が140万円で、補正予算には含まれている。

令和6年度は、2024年に新潟で実施予定だが、負担費用については来期予算で検討する。異議なく承認された。

反対：0名、棄権：0名、賛成：24名(2名離席)

議案第7号 臨時総会開催について

小野寺専務理事が、今後、11月2日会計監査、11月9日理事会、その後、11月26日にハイブリッドで、臨時総会開催の予定としている旨説明した。総会では、赤字検証委員会

報告と理事会の対策の説明、補正予算についての決議、基金設置と定款の変更が議事の予定。

11月26日の総会実施について、異議なく承認された。

反対：0名、棄権：0名、賛成：24名(2名離席)

議案第8号 山岳スキー選手選考基準追加について

平田理事が配布資料を基に説明し、以下の意見が出された。

- ガバナンス委員会としても確認したが、強化委員会が恣意的な運用判断をするのではないかという疑念を持たれることもあるので、強化委員会の中で、内規的に判断基準を設けておくのも一つの方法ではないかと思う。

内規として判断基準を取り決めておくことを条件として、採決を取り、以下のように承認された。

反対：0名、棄権：2名(平田理事、杉本理事) 賛成：23名(1名離席)

議案第9号 J M S C Aフレンド改修、拡張の業務委託契約書について

赤尾事務局長が、配布資料を基に以下の背景を説明した。

先月、J M S C Aフレンド(選手登録システム)のプロジェクトの全体見積もり(5つの物件を含む)については、承認された。その後、アプリケーションの一部改修と開発(513万円)については、契約審査委員会から500万円を超えるので、契約を進める前に理事会承認が必要との指摘があり、理事会での審議をすることになった。

当事業の可否について採決をとり、異議なく承認された。

反対：0名、棄権：0名、賛成：23名(3名離席)

議案第10号 パラクライミングとJ M S C Aとの関係について

飛松副会長が、配布資料を基に、パラクライミングとJ M S C Aとの過去の経緯を説明した。

J M S C Aのガバナンスがしっかりしていないので、今後、協力すべきところは協力するという関係改善のために、丸会長と、小野寺専務理事で、先方に挨拶に行く予定。

7. 報 告

報告第1号 月次報告について

小野寺専務理事が、配布資料を見ておくように伝達した。

報告第2号 顧問参加会開催確認について

小野寺専務理事が現状を説明し、10-20名ぐらい参加の予定、八木原顧問叙勲祝賀会は、約40-50名の参加予定と伝達した。

報告第3号 アジア山岳連盟30周年について

議長が配布資料を基に、説明した。

昨年11月に紹介されたもので、開催県と取り決めをした。

参加者は50名ぐらいの予定。たいまつ登山には、J M S C Aは関与しない。

海外登山委員会にも、実行委員会メンバーとしてはいっていただく予定。

実行委員会のメンバーは、常務理事会で承認済。

名誉会長は、実行委員会で検討する。

報告第4号 東京開催山の日イベントについて

蛭田副会長が、運営委員会ができれば実作業がスタートできるが、それまでは、4団体で何ができるかを検討し始めたという進

捗状況の説明をした。

報告第5号 日新火災海上保険について
2-3週間前に、正式に決定した。JMSCA HPにバナーを張る予定。

日新火災が保険の営業を行う予定。

報告第6号 宮城岳連後援名義承認について
議長が、配布資料を各自読んでおくように伝達した。

報告第7号 公認大会申請について

議長が、配布資料を各自読んでおくように伝達した。

報告第8号 山岳スキー日本選手権開催要項について

2/17, 2/18実施の前提で、常務理事会で承認されているが、予算数値が明確になり次第、あらためて実施の可否について諮ることになっている。

報告第9号 指導員認定について

議長が、配布資料を各自読んでおくように伝達した。

常務理事会では承認済である。

報告第10号 派遣選手の承認について

議長が、配布資料を各自読んでおくように伝達した。

常務理事会では承認済である。

報告第11号 佐賀県JMSCA公認SC強化センターについて

佐賀県では、11月17日、18日に、開所式が予定されているので、

その前後のタイミングで許可承認をするように対応することが必要。

報告第12号 副会長会報告について

現行スポンサーに対して、各大会で見かけたら、対応をしっかりとお願いしたい。現在、新スポンサーとしてM社にアプローチし

ている。

報告第13号 業務執行理事の職務執行報告書について

各執行理事が、配布資料を基に、発表した。

8. その他

配布資料で、8. 会務・役員派遣

(4) 特別国体 燃ゆる感動かごしま国体 10月7日(土)～10日(月)の役員派遣に山本副会長を追加するようお願いいたします。

以上
令和5年10月12日 記録 赤尾 浩一

〈お詫びと訂正〉

先月号の「理事会報告」で誤りがありました。関係者の方々に深くお詫びするとともに、ここに訂正致します。
P11 出席者 誤 小高、中橋各理事
→正 小高、中橋、島田各理事
P12 3. 会議成立状況報告
誤 理事数 29名中 25名→正 理事数 29名中 27名
誤 定足数=13名 →正 定足数=15名

日山協山岳共済会に加入すると 数々の特典が得られます。

入会費無料 年会費1,000円 (18歳未満は500円です。)

(日山協山岳共済会の会員の方は保険料が約46%割引の山岳保険に加入できます)

※山岳スポーツ活動とは、登山のほか、スキー、スノーボード、スノーシュー、ホルダーなども含まれます。



<p>1 どなたでも入会できます。</p> <p>山岳共済会は、日本の山岳遭難・捜索保険の草分けで、5万人の会員を持つ最大級の山岳共済です。年齢・既往症に関係なくどなたでも入会できます。</p>	<p>2 保険料が約46%も割引となります。</p> <p>山岳共済会の会員になると、山岳保険に加入できます。この山岳保険は、団体加入の保険で、団体割引が適用され、保険料が約46%も割引となります。この山岳保険は、日常生活においても補償されます。</p>	<p>3 ピーコンの貸し出し</p> <p>山岳共済会の会員の方が主催する講習会・研修会等へ「雪崩ピーコン」を貸し出します。詳しくは山岳共済会のホームページをご覧ください。</p> 
<p>4 疾病死亡見舞金</p> <p>山岳共済会の会員の方が山岳スポーツ活動中に突然死や疾病で死亡した場合、山岳共済会よりご家族の方へ弔慰見舞金10万円を支払います。 ※山岳スポーツ活動とは、登山のほか、スキー、スノーボード、スノーシュー、ホルダーなども含まれます。</p>	<p>5 会員証</p> <p>加入者証をお送りしますので、会員証としてお使いください。日山協山岳共済会のみ加入の方にのみ共済会員証の葉書をお送りします。いずれも本人のみが使用できます。</p> 	<p>6 山小屋等の割引</p> <p>山岳共済会の会員の方は、提携の山小屋等で割引が受けられます。提携施設やサービス内容等は山岳共済会のホームページをご覧ください。</p> 
<p>7 検定会や講習会の割引等</p> <p>共済会加入者が夏山リーダーおよび上級夏山リーダー講習会や検定会の参加料を2,000円割引します。また、共済会主催のロープワークおよびセルフレスキュー講習会に無償で参加できます。共済会主催で、東京と大阪で、午前中はロープワーク講習会、午後はセルフレスキュー講習会を計画中です。</p> 	<p>8 海外登山保険に加入できます。</p> <p>山岳共済会の会員の方がヒマラヤなどの海外登山に出かけるときに、海外登山保険に加入することができます。保険のご加入期間は日本を出発する日から帰国の日までです。捜索・救助に係る費用だけでなく、治療に係る費用も補償されます。山岳遭難・捜索保険の草分け的な山岳共済会だから加入できる保管です。</p> 	

日山協山岳共済会保険には4つのコース

- ①ハイキングコース
- ②登山コース
- ③トレランコース
- ④スポーツクライミングコース

詳しくは山岳共済会のホームページをご覧ください。

※山岳保険等には、保険業法で認める保険と遭難の費用だけが出る共済があります。あなたの山岳保険は怪我や入院等に対応していますか？

- 傷害死亡・後遺障害
- 遭難捜索費用
- 救援者費用
- 傷害入院
- 傷害通院
- 傷害手術
- 日常生活賠償

日山協山岳共済会会員になるには

下記からお問い合わせください。

日山協山岳共済会
事務センター

170-0013 東京都豊島区東池袋3-7-11-707
TEL: 03-5958-3396 / FAX: 03-5958-3397
受付時間 月～金 10:00-17:00(祝日を除く)
E-mail: sangakukyousai@mbd.ocn.ne.jp



携帯からも資料請求ができます。

<https://sangakukyousai.jp>



かすみちゃんのハイキング日記



表紙のこぼれ

茨城県には高い山が無い。福島県境の八溝山(1022m)が唯一の1000m越え峰で、栄蔵室(881m)、筑波山(877m)と続く。低山の里山であり、遠目にはなだらかな丘陵に見えるが露岩が多く、結構な岩稜歩きの気分が味わえるコースが多くある。

男体山(653m)は日光の男体山と区別する為に、奥久慈男体山と呼ばれている。久慈川上流、福島県境に近い県の北部にある山で常磐線の下り、水戸を過ぎて東海辺りから車窓左手、遥か遠くに左(南)が切り立った非対称の三角形の特徴ある山頂が遠望出来る。登山口4カ所から6コースが山頂に続き、お好み次第のコース取りが出来る山で県内、近県の岳人に親しまれている。

(茨城県山岳連盟 理事長 中沢隆一)

編集後記

今回で2回目の編集作業は、前回よりは手際よく進められた感じでした。そんな中、創刊656号に目が留まりました。登山月報は1年に12回発行されており、656を12で割ると54。これまでに54年間の歴史があり、自分が生まれる前から続いている登山月報には、改めて大切な役割を引き受けた重みを感じています。これまでの担当者はどんな気持ちで編集をしてきたのだろうか。今度聞いてみようかな。まずは発行が遅れないように頑張ります。

(松本光顕)

一般財団法人 日本トレイルランニング協会

〒252-0184 神奈川県相模原市緑区小淵1545-1
北丹沢山岳センター内

URL: <https://trailrunning.or.jp/>

※現在、非常勤の為電話番号は非公開とさせていただきます

登山月報 第 656 号

定 価 110 円 (送料別)

予約年間 1,300 円 (送料共)

(毎月 1 回 15 日発行)

発行日 令和 5 年 11 月 15 日

発行者 東京都新宿区霞ヶ丘町 4 番 2 号
Japan Sport Olympic Square 807
公益社団法人
日本山岳・スポーツクライミング協会

電 話 03-5843-1631

F A X 03-5843-1635

山岳
雑誌

岳人

がくじん

山と人、時代をつなぐ「岳人」

12月号
発売中

【特集】山選びと計画 ~ 安全登山の基本 ~

★モンベルのウェブサイト
全国のモンベルストアや書店にて発売中!

毎月15日発売 価格1,100円(税込)



モンベルクラブ入会キャンペーン実施中!

▶年間購読が断然おトクに!

年間購読 通常特典 購読割引 送料無料 限定品プレゼント

さらに モンベルクラブ会員さまには
モンベルポイント **5,000P** プレゼント!

モンベルクラブ会員さまで現在購読中の方は、
次回継続時に5,000Pをプレゼントします。

年間購読特典

岳人コンパクト
フォーム
パッド

手軽に携行できる
軽量コンパクトな
パッドです。

限定
デザイン

岳人
カード

全国2,000カ所以上で
ご優待!

全国の温泉や山小屋など提携施設で
さまざまご優待が受けられるカードです。



年間購読のお申し込みはこちらから! >>>
<https://www.gakujin.jp/>



全国の
モンベルストア
でも受付中!

お問い合わせ
モンベルポスト

0120-982-682 / TEL 06-6538-5797
※フリーコールは携帯・IP電話からご利用いただけません。

SDGsで、未来をつなぐ

三井住友海上は、安心と安全の提供を通じて、持続可能な社会の実現に取り組みます



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



SDGs (Sustainable Development Goals)とは

2015年の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に掲げられた包括的で持続可能な社会の構築を目指す「持続可能な開発目標」のことです。

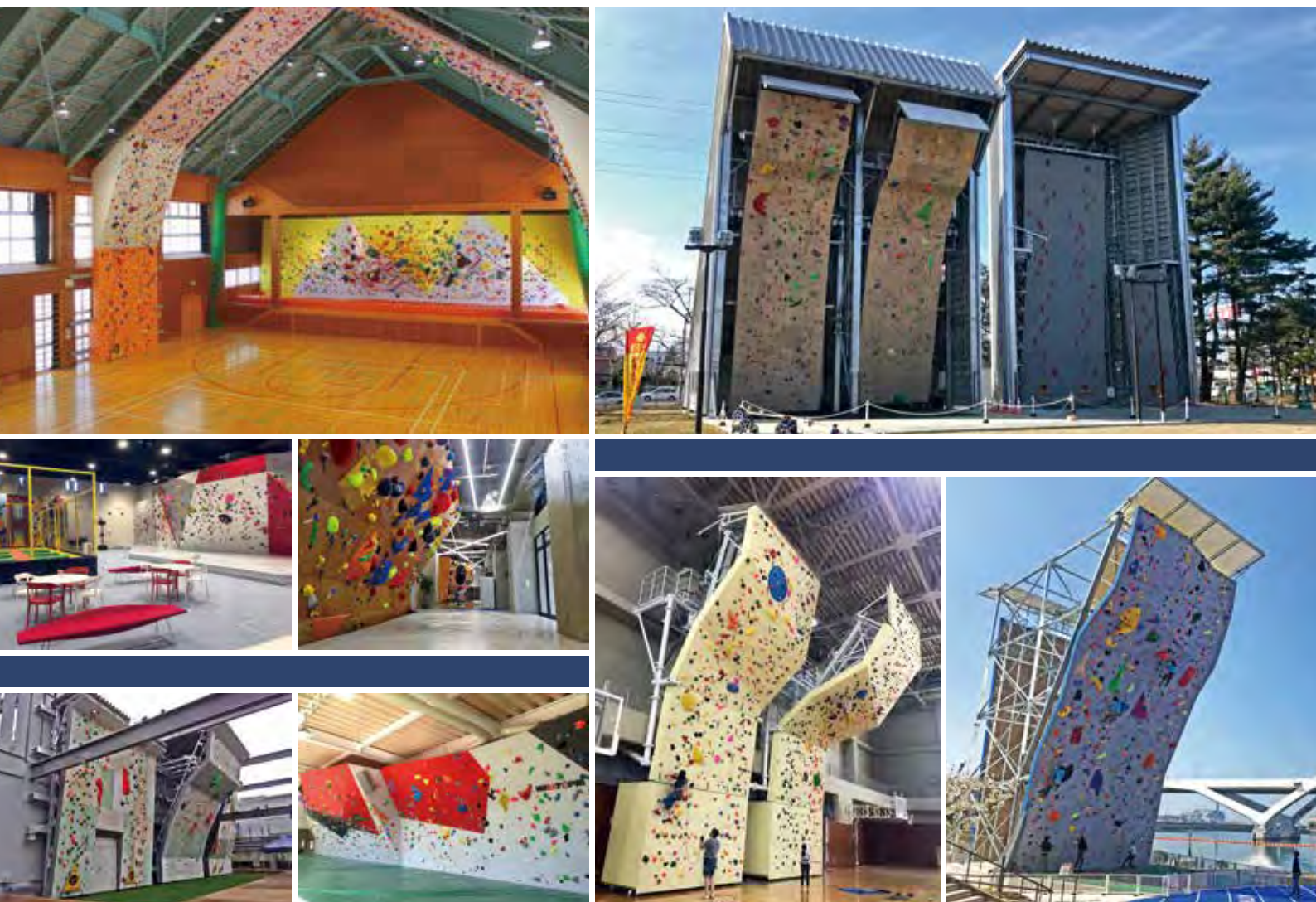
持続可能な地球環境		安心して暮らせる社会		活力のある経済活動	
関連する主なSDGs	主な取組	関連する主なSDGs	主な取組	関連する主なSDGs	主な取組
12, 13, 14, 15	<ul style="list-style-type: none"> 再生可能エネルギーの普及支援 自然災害リスクモデルにもとづくコンサルティング 	1, 2, 3, 4, 5, 6	<ul style="list-style-type: none"> 健康づくりの支援 先進技術を活用した利便性の高いお客さま対応 	7, 8, 9, 10, 11	<ul style="list-style-type: none"> 次世代モビリティ社会への対応(自動運転車等) 災害に強いまちづくりの支援

立ちどまらない保険。

MS&AD 三井住友海上

三井住友海上は、レジリエントでサステナブルな社会*をめざします。

*外部環境にしなやかに対応する、持続可能な社会



日山協山岳共済会のご案内

安全登山は登山者の努め、
山岳保険は義務。

ご自身のために、ご家族のために。

日山協山岳共済会とは、

日山協山岳共済会とは公益社団法人日本山岳・スポーツクライミング協会(JMSCA)とアライアンスを組み、安全登山の指導・普及を図り、山や自然が好きな人たちのための互助と自立を目指す仲間の集まりです。山岳共済会は、日本の山岳遭難・捜索保険の草分けで、5万人の会員を持つ最大級の山岳共済です。年齢・既往症に関係なくどなたでも入会できます。

2022年 山岳遭難の概況

警察庁生活安全局生活安全企画課
(2023年6月9日)

発生件数 **3,015**件(前年対比 380件増)
遭難者数 **3,508**人(前年対比 431人増)
死者・行方不明者 **327**人(前年対比 44人増)

